



■鶴嘴山(山歩き教室)実技-1

- 日 程：4月19日(土)
- 参 加 者：[サポート] 木村 砂川(延) 中村 安田 矢根
[教室生] 石堂 亀島 中西 古澤
- 行動記録：東觜崎駅 9:55 発～登山口(10:10 着)10:30 発～屏風岩(11:00 着)11:05 発～山頂(12:00 着)12:20 発～野森稻荷神社(12:50 着)13:00 発～東觜崎駅(13:20 着)

◆4月12日 鶴嘴山

石堂

山行予定のある10日ほど前から毎日の天気予報チェックは欠かさない。今回も毎日「晴マークだな」とチェックしていたが、当日は気持ちよく晴れてくれた。4月9日に座学がスタートして、早速初めての実技。今回はたつの市の鶴嘴山。3年前にふと、地元の書写山に登ったのをきっかけに県内の低山へ登るようになった。次に行きたい山のリストの中のひとつでもあった鶴嘴山。

いつも一人、若しくは友人と二人での山行なので会員の皆さんと行くことがとても楽しみだった。ビギナーからベテランまで9名、汗ばむほどの陽気の中、姫新線東觜崎駅からスタート。駅前で軽くストレッチをしてから登山口を目指す。

長閑な住宅街を歩く途中、野菜の無人販売所が気になって覗いたり、初めての皆さんとお喋りしながら既に楽しい。

10分ほど歩いて、まずは県指定の史跡の觜崎磨崖仏を見る。

揖保川沿いの岩山に彫られた5体の石仏。調べてみると「紀年名のあるものとしては県下で最古のもの、南北朝時代の優れた磨崖仏」とのことでの「いぼ神さん」と呼ばれているとか。

素朴であたたかな表情の地蔵菩薩様に見守られて、穏やかな気持ちになった。

足元には可愛らしい野花が咲いており、詳しいメンバーの方がオドリコソウとヒメオドリコソウとオオイヌノフグリだと教えてくださった。

写真を撮ったり、揖保川の流れを眺めたりしてようやく登山口へ。家を出た時はウィンドブレーカーを羽織っていたが、気温はぐんぐん上がり登り始めるとうっすら汗ばむ。10分ほど登っては水分補給などの休憩をとり、最初のポイント国指定・天然記念物の觜崎の屏風岩に到着。全体像を見るには揖保川の右岸からが適しているようだが、その頂部分を間近に見ることができる。

山行レポートなどでは頂上まで登っておられる写真などもあるが、実際近くで見ると登るのはなかなかのチャレンジャーだなと思う。

見晴らしのよいこの辺りから揖保川の西の新龍アルプスの全景が涅槃像に見えるというの



も見どころのひとつ。その姿も写真に納め、再び山頂を目指す。

岩場をのぼりきったら次のポイント「タイコ岩」。タイコ岩の下には木札に描かれた仏様があった。麓の磨崖仏や仏様に守られているような安心な気持ちになる。タイコ岩からの景色も素晴らしい、岩越に目指す鶴嘴山山頂も見えている。

途中、会長から歩き方のコツを教えていただいた。「花魁歩きでゆっくり登ること」

いつも勢いでサクサクと進んでしまい、前のめりになって「しんどい」を連発しているが、なるほど、花魁歩きを意識すると自然と背筋が伸びてゆっくりと歩ける。

山頂手前の急登での息切れもこれで回避できそう。花魁歩きを意識してゆっくりと進み、鶴嘴山山頂 263m 登頂。

毎回思うことだけど、途中のしんどさや恐怖心も山頂での達成感や広がる景色をみると、すべて忘れて「登ってよかった」と思えるのが山のおもしろいところ。



三角点の指さし写真を撮ったり、新メンバーだけの写真を撮っていたいたりして、各自持参のお弁当をいただく。簡単なおにぎりひとつでも、山頂で食べるとなんて美味しいのだろう。

お喋りしながらの休憩はあっという間に終わり、登ってきたコースとは別のコースで下山開始。下山のひたすら下り続ける道は岩場は少なく、砂と落ち葉で足元は滑りやすい。

登りよりも下りの方がいろいろと気を付けなければいけない。

木の枝に頭をぶつけたり、滑りやすい箇所など前後で声掛けしながら下り、あっという間に朱色の鳥居が並ぶ龍王大神が祀られている野森稻荷神社に無事下山。

ここでまた一つ教えていただいた。解けない靴ひもの結び方などを教えていただき実践。

そしてここでも会長から下りのポイントとしても「ゆっくり」と教わった。

日頃忙しなく走り回っているのだから、癒しを求めてやって来た山では「ゆっくり」を心がけよう。

途中、朝覗いた野菜販売所に立ち寄りさつま芋を購入。美味しいなお芋だ。

今回初めて山遊会の皆さんとの山行で、さらに山が楽しく感じられた。

今まで自分で調べた情報だけを頼りに一人でやってきたが、こうして山遊会に参加して知らなかつたことを知ったり、知識や情報の再確認できることがたくさんあるなと実感。

いつかはアルプスにもチャレンジしたいと秘かに夢を持っているが、低山メインでも月一登山を続けて、登山をライフワークにしたいという想いはますます強くなった。

ご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、今後も皆さんと山を楽しめたらと思います。よろしくお願いします。

■六甲・市ヶ原テント泊～摩耶山

<アルプ山行>

●日 程：4月19日(土)～20日(日)

●参 加 者：CL三木(悦) [19日] L尾内 SL春本 [20日] L高島 SL須増 尾越 乙坂 平井 福田

●行動記録：

(19日)：新神戸駅 12:00 発～公園(12:10着) 12:15 発～市ヶ原桜茶屋(13:15着) 13:20 発
テント場(13:25着) ツェルト、テント設営 14:30～クッキング 15:15～夕食・談話・片付け～就寝 20:00

(20日)：起床 5:30～テント撤収～朝食 6:00～ラジオ体操 6:30～テント場 7:00 発～ 桜茶屋(7:05 着)7:15 発～学校林道分岐(8:25 着)8:30 発～地蔵谷下降点(9:15 着)9:20 発～掬星台(9:40 着)10:15 発～史跡公園下青谷分岐(10:35 着)10:40 発～ 行者堂跡(11:00 着)11:10 発～青谷登山口(11:40 着)

◆やっぱりテント泊は楽しい

福田

山登りの楽しみをさらに魅力的にする要素として山飯作りとテント泊があると私は思っています。テントや寝袋、食料、調理道具等 山小屋で提供されるすべての物を自分たちで準備して担いで上がるのですから当然ザックも重くなるし準備も大変です。でも、その苦労をしても得難い楽しさがあると思うのです。

今回はその両方が楽しめる例会を六甲で計画してくださっていたので参加しました。集合場所の新神戸駅に着くとそれぞれが分担する食材が渡されました。私の40Lのザックはすでにパンパンでその小さなビニール袋ですら入りません。仕方なくザックの外にぶら下げて出発しました。



市ヶ原へ到着すると H さんがコーヒーを豆からひいて振舞ってくださいました。その後 4 張りのテントとツェルト 1 張りを立て夕食の準備スタートです。

岩塩プレートで焼くステーキやアンチョビペンネ、カレ一鍋にリゾット なんと！！デザートにパンプディングまで！！全員でワイワイおしゃべりしながら料理して、火を囲んで食べる夕食は最高においしく楽しい時間でした。

私たちのすぐそばにはテント泊の様子を動画撮影している若者や世界一周を自転車でまわり帰国後のんびりとテント泊している青年もいて彼らとの交流も楽しかったです。

さあ！明日はテント泊の道具一式の入ったザックを担いで摩耶山登山です。頑張ろう！！

◆六甲・市ヶ原テント泊に参加したちはまりました

春本

桜も終盤、一週間前の天気予報では二日目に崩れるとのことスタートは新神戸駅正午です。すぐ上のトイレの広場でストレッチでは日差しがきつく暑い、この日豊岡では全国一の最高気温だと後で確認された。布引ダム湖での昼食休憩でメンバーに振り分けた食材の暑さ直射に当てないよう気になる、今日の山飯はお肉を岩盤で焼くという期待いっぱい。休憩含みの一時間半でテント場上の桜茶屋に到着、摩耶山友会のロープワーク後、全縦ルート横でテント張る。15時頃から食事の準備をする頃では周りを見渡すと数張りのテントやタープ・ハンモックの人たちが見える。



いよいよ食事を楽しめていただく時間が来てワクワクする、いやあ～想像以上の美味しさ、絶妙塩味のお肉やアヒージョ、プリンパン、汁を残さず食べる工夫を凝らした山食で大満足です、引き立てコーヒーまで頂きました。

周りも炎が上がって山火事がちょっと危なっかしい気がしたけどBBQを楽しむ人たち、テント泊でなければお目にかかる光景でした。

昼間の暑さからは大きく冷えた夜は、テント内で寒かったが装備の工夫で次回は一新しようと思う、なんせ一番大きいザックでもヨガマット、夏シュラフで雨具しかなく防寒はカットしてパンパンでした、新一年生の様なデカザックが必要かとも思う。

夕べ花火の音が雷かと思い、真夜中雨音の様な通り雨なのかなと云ううちに夜明けとともに起床し早々にテントを収納して、歩荷の全縦ルートを稻妻坂・天狗道へとすすむ、学校林道分岐辺りのツツジの群生に癒されます、摩耶山頂上の掬星台広場ではゴールデントレインで大勢の人出、兵庫県民TVや各ベース、サウナカーまで、10時過ぎなので今からでしょう。

普段とは違う時間帯で下山を始め青谷登山口からバスがすぐに来て三ノ宮にはお昼に着いてお疲れ山。

すべてがスムースに運び、アルプのメンバーも大満足。自身も一昔前のテントのイメージが革新されました。それもこれも準備、天候予想、リーダーをはじめ各担当・分担が行き届いての協力でグッドジョブ good job



■大師道から修法ヶ原

- 日 程：4月20日(日)
- 参 加 者：L砂川(延) SL黒本 池田 大谷 小野 佐野 立花 田中(重) 田中(由) 福原
- 行動記録：JR元町駅西口 9:00 発～相楽園(9:16 着)10:25 発～諏訪山公園(10:40 着)10:45 発～ビーナスブリッジ展望台(10:55 着)11:05 発～狸々池(12:05 着)大龍寺(12:30 着)13:10 発～市ヶ原(13:45 着)桜茶屋(13:50 着)布引貯水池(14:10 着)新神戸駅(15:05 着)

◆感想文

池田

「当日は9時に元町駅に集合。本日の参加人員は11名でのスタートになりました。元町からどの様なルートなのか？ 心弾ませながらの山行となりました。

9時15分、相楽園へ到着。軽いストレッチをする。相楽園は神戸の都市公園で唯一の日本庭園であり敷地内には国重要文化財の旧ハッサム住宅があります。

ハッサム邸は内部は玄関を入って中央部に、階段を含む小ホールと廊下があり応接室、居間、食堂等、2階は寝室、浴室等プライベートな生活空間になっていました。外部には神戸地震で壊れた煙突も生々しいまま展示されていました。庭園はツツジ、ボタン等の花がお迎えしてくれ和と洋の融合の世界にしばらく浸る。



10時25分、諏訪山へと登る。ジグザグの階段を登っていくとイノシシが掘り起こした跡

が数多く見られた。

10時45分、諏訪神社の藤棚や新緑のもみじが目に映り季節を感じる。らせん階段やスロープのビーナスブリッジを歩くとビーナステラスからの神戸の景色は絶景！

会員の方に飴を頂き思わずほっこり。

11時5分下りが続くと標識に狸々池へと表示されている。11時30分、砂防堤防を右にし

てアップダウンが続く。12時5分、狸々池での休憩。グミを頂き美味しかったです。

12時30分、西国愛染十七靈場第五番札所、大龍寺到着。（再度山へは時間の都合で行きませんでした）昼食。ここの水は超軟水で敷地内の水道の蛇口をひねるとペットボトルに入れて持ち帰れるそうです。寺はボケ封じの觀音様や水子供養のお地蔵様が祀られていた。

13時30分、大龍寺出発。これより布引の滝へと下山。

15時、雄滝に到着。本日の水量は会員の方曰く、いつになく多いとの事。

15時40分、見晴らし展望台でストレッチをしていると登山客、1~2名の方が笑顔で参加されていました。これより新神戸へと下山。

帰りに「寄って行く人～？」と声掛けされ（笑）、気持ち良い汗と程よい疲れにビールが美味しかった。本日の山行に参加させて頂き皆様との出逢いに感謝いたします。有難う御座いました。よろしくお願ひ致します。

■花咲山(637.6m)から行者山(787.2m)縦走

●日 程：4月27日(日)

●参 加 者：L尾内 SL須増 一瀬 乙坂 笹木 高井 藤原(浩)

●行動記録：宍粟市役所8:05発→センターいちのみや登山口(8:25着)(車1台を下山口に回す)9:00発→磐座(9:40着)→アンテナ(10:05着)10:20発→花咲山(10:40着)10:50発→616.7地点(昼食)(11:55着)12:20発→分岐(14:05着)→行者山(14:15着)14:35発→分岐(14:40着)→駐車場(15:35着)

◆花咲山から行者山縦走に参加して

藤原(浩)

4月に入り日曜日ごとに雨、曇り空が続いていましたので、天気が一番心配でした。この度も雨は免れそうだが曇空の予報。でもラッキーな天候で、1日中晴天に恵まれました。山行は晴天が一番と思っています。雨天や曇り空も情緒があって良いと言われる人もいますが――。

宍粟市役所駐車場に集合し、そこからは車2台に分乗で登山口に向かいました。

花咲山へは予定通り、9時丁度に山頂目指しのスタートでした。杉樹林の中、少し登り出すと山椒木の落ち葉が所々でみかけられました。よく手入れされた杉、檜樹林だなアと思っていると東市場生産森林組合所在地見取図の標示板があった。その前を通りふと見上げると岩盤が目の前に立ちふさがっていました。傍にいくと“磐座”と言う標示がありました。この周辺にマムシ草が見られました。そこから少し登ると根元から二つに分かれた立派なヒノキ大樹があり「立派なヒノキやなア」と言いながらとおりました。アンテナのある所で観覧がてら休憩しました。周辺にはツツジ、アセビの木がありました。アンテナ地から山頂に向かうと、今は貴重な松の樹が見られるようになったが枯れ樹で寂しい思いをしているとその周辺に若木が多く育っていて嬉しくなりました。貴重な地だから汚染されたり荒らされなければ良いのにと強く思いました。

花咲山へは予定通り登頂することが出来ました。記念撮影後、西はりま消防組合安積基地局、NHK一富安積FM中継放送所、兵庫県嵯峨山中継所脇を通り林道へ出ました。しばらく歩く



と、カブスカウト完栗第3回の記念石柱があり、そこからが行者山縦走の分かれ道でした。縦走奨励の山道でない為、標示もなかったので、右往左往しましたが、でもさすが正、副リーダーさんの確認路発見も早く以後はほぼ順調に目的地をめざせました。

標高616.7m地点へは、12時頃に着き昼食になりました。この地点は松樹林地で大樹が多くあったのには感動しました。そこを下ってから後の行者山へは、急勾配、骨の折れる山道続きで私もですが皆さん苦労され登られたと思います。一息着いた所に満開のツツジが出迎えてくれ、疲れが大変癒されました。以後は快適に山頂目指せました。山頂付近から東山、高峰、藤無山が望めると聞いていましたが分かりませんでした。

下山は途中の分岐点まで下り生栖登山口へ向かいました。途中又ワラビ、山椒の点在場所、三権（みつまた）林の側を通り登山道入口に全員無事下山することが出来ました。山椒苗木を多く見かけていたと思ったら、記念に植えようと持ち帰る人もありました。

この度の山行路は、殆どが杉、檜の樹林地でしたが印象に残った区域もあって満足道でした。正副リーダーさん及び参加の皆さん有意義な山行有難うございました。



フデリンドウ

■裏六甲・シュラインロード

●日 程：4月27日(日)

●参 加 者：A班 L藤原 SL山本(正) 白井 岡田(淳) 澤田(律) 佐野 立花 田羅間 西川

B班 L春本 SL黒本 福原 松本 森下 山下 吉村

C班 L安田 SL砂川(延) 橋本(万) 平石 松田 三木(知) 矢根 山本(清)

●行動記録：有馬口駅 9:30 発～猪ノ鼻滝(10:26 着)10:37 発～シュラインロード入口(11:08 着)11:15 発～行者堂(12:01 着)12:14 発～ビジターセンター(12:45 着)13:30 発～天覧台(13:50 着)13:58 発～油コブシ(14:22 着)14:26 発～六甲ケーブル下駅(15:30 着)

◆新緑の裏六甲を歩く

西川

シュラインロードを歩くのは16年10月、19年8月と3回目ですが、今回は下りのコースが違うとの新緑の景色を見ることができるのが楽しみです。

幸い天候に恵まれさわやかな風の中、神鉄有馬口を9時30分24名の大集団が3班に分かれて出発。途中の神社でストレッチの後、高速道路の下をくぐり舗装されたゆるやかな登りを谷川のせせらぎを聞きながら歩く。しばらく行くと猪ノ鼻滝に到着、この滝はウォータースライダーのようでメンバーの中の何人かは滑り降りたことがあるらしいが、私は無理だ。小休憩後10時40分出発、満開のミツバツツジが迎えてくれる。しばらく歩くと分岐に到着、軽い

食事の後シュラインロードに向かう。

資料によるとシュラインロードはかつて「六甲越」と呼ばれた険阻な道で野盗や化け物が出る恐ろしい道で、このため犠牲になった人の供養や道中の無事を祈るために文政年間に西国三十三か所になぞらえた33体の石仏が寄進された。番外4体を含む37体の石仏が山道にある。そのうち9体はドライブウェイの工事のため移設され「九体仏」と呼ばれ見どころの一つになっている。

「九体仏」で記念撮影の後いよいよシュラインロードに入る。ここからは少しきつい登りになるが、山道の左右に点在する石仏を眺めながら歩くと木漏れ日と薰風が心地よい。行者堂で休憩の時ザックにマダニが付いていたがSさんの一撃で事なきを得た。行者堂からはフラットな山道で、雲仙つつじ、マムシ草、馬酔木の花、レンギョウ、猫の目草、ショウジョウバカマなどリーダーに教えてもらいながら12時45分ビジャーセンターに到着、ここで食事休憩。気温が低いせいか山桜がいまだ盛りで目を楽しませてくれる。グルーム像の前で記念撮影の後13時30分出発、六甲ケーブル駅へ。ここで2名と別れ油コブシへ。油コブシの名前は昔、灘の菜種油商がこの道を通って丹波方面へ油を運ぶ途中、油をこぼしたのがなまつて「油コブシ」になったそうだ。



思っていたよりも楽な山道を15時20分無事下山する。新緑の鮮やかな景色の中、楽しい時間を過ごせたことをリーダーはじめ同行の皆様に感謝いたします。有難うございました。

◆裏から表のシュラインロード

春本

山々が新緑の季節で六甲山を縦に横断する山行に参加します、一週間前はテント泊でした。

朝6時台の列車に乗り姫路駅から仲間と合流、山電1日切符購入し新開地で神鉄に乗り換えて有馬口駅で差額分を支払い改札出口の集合場所に総勢24名の3班です。

あまりの大勢なのか出発直ぐにパトカーに声を掛けられる。このルートは初めてと思いきや3年前に逢山峠の沢歩きで来たことがあったのでした。川が大きく屈曲した先で猪ノ鼻小橋を過ぎ仏谷、茶園谷が左へ分れます、この時期の草花が目を和ませます。



距離を稼ぐ長い林道を右に古寺山からの道が合流しやっとシュラインロードの起点。さほどきつくない登りの間石仏が点在しています。鳥居をくぐると裏六甲ドライブウェイ沿いに九体仏が移転されて祠られてました。一部階段もありますが全体に穏やかな歩きやすい道で行者堂に着くとここも見覚えがあります、脇侍の前鬼・後鬼がユーモラスで愛嬌。

別荘街の舗装道、33番石仏を過ぎ前が辻手前でショートカットレビジャーセンターで大休憩の後、六甲ケーブル上の天覧台から22名で油コブ

(ボ)シ道を下る、灘の商人が油をこぼした単位のガロン同様の難所有のコースは時間で一時間半、ケーブルだと数分だったみたい。ケーブル下からバスがすぐ発車して阪急六甲、JR六甲道、阪神御影まで乗っても均一料金、ならば終点御影としたが2国を東へ三ノ宮から離れあせったが特急が止まる駅なので由かな。今回天候よし、花々よし、メンバー無事満足で数ある六甲のルートのなかのおすすめコースを堪能できました。